

太刀 銘 長光

この太刀は、西日本の備前国（現在の岡山県）の長光という刀鍛冶が 13 世紀後半から 14 世紀初頭に鍛刀したものです。備前と、隣接する備中は、良質な砂鉄の産地として、また、その鍛刀技術でその名が知られていました。この地方は多くの著名な刀工を輩出しましたが、長光ほど多作な者はいないでしょう。長光の手による刀が 70 本以上、鍛刀されてから約 700 年経った今日でも現存してことがわかっており、その多くが国宝や重要文化財に指定されています。これらの太刀の大半は、高名な武士や貴族がかつて所有していたものです。この太刀は、装飾を施した刀装具とともに 1603 年から 1867 年まで日本を統治した徳川幕府の第 9 代目当主、徳川家重が 1753 年に奉納したもので、国の重要文化財に指定されています。